

ジャズの魅力伝え半世紀

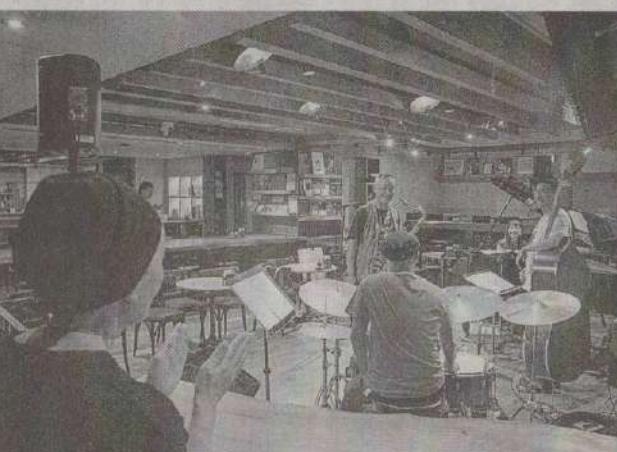
日本のジャズクラブの莫分け的な存在として知られる「BODY&SOUL」（ボディー・アンド・ソウル）（東京・渋谷）が、開店から50年を迎えた。新型コロナ禍で一時は経営危機に陥ったが、全国のファンの支援で乗り切った。オーナーの関京子さん（83）は「ライブはジャズの現場。その魅力を伝える場であり続けたい」と、思いを新たにする。

関さんがジャズに関心を持つたのは、戦後間もない頃。録音技師だった父が復員後、ラジオ番組の制作に携わり、スタジオに連れられてジャズの生演奏を聴いたのがきっかけだった。関さんは「ジャズのことは何も知らなかつたけれど、その熱気に触れて、とけだつた」と振り返る。

モダンジャズを代表するドラム奏者アート・ブレイキーが、来日公演のたびに店を訪れるようになったのをきっかけに、海外のミュージシャンにも店の名前が知れ渡り、数々のビッグネームがステージに立つた。

一方で、国内外の新人发掘にも力を注ぎ、演奏の機会を積極的に与えてきた。世界のジャズシーンで活躍するピアニストの小曾根真さん（63）は「関さんは何十年にもわたって退団後の1965年、東京・新宿にジャズクラブ「タロ」「BODY&SOUL」がオープンしたのは74年。新宿皓正らが演奏し、親交を深めた。

コロナ禍もファンが支援



リハーサルの演奏に拍手を送る関京子さん（手前）と笑顔で応えるメンバー＝東京都渋谷区の「BODY&SOUL」



開店から50年を迎えた「BODY&SOUL」前で撮影に応じる関京子さん

21年10月からは拠点を南青山から渋谷に移し、ライブを続ける。7月からは50周年を記念したライブが不定期で行われ、9月5日には小曾根さんも演奏を披露する。関さんは「多くの人たちに支えられてきた半世紀だつた。これからも、ライブを通じてジャズの文化を守つていきたい」と話している。

コロナ禍で客足が遠のき、売り上げも4分の1に減ったが、常連客やクラウドファンディングの力を借りて乗り切った。

関さんは「多くの人たちに支えられてきた半世紀だつた。これからも、ライブを通じてジャズの文化を守つていきたい」と話している。